

中野区長と外国人住民の懇談会

～コロナから考える緊急時の外国人への対応～



初のオンライン開催

懇談会の概要

本懇談会は、明治大学国際日本学部山脇ゼミ主催、中野区協力のもと、2020年7月1日にオンライン（ZOOM）で開催されました。当日は関係者含め、全国各地から総勢約100名が参加しました。

2つのサブテーマ

外国人への緊急時の対応策をテーマに、以下の2つのサブテーマについて話し合いました。

- (1) 新型コロナウイルス関連
- (2) 病気になった時・災害時

懇談会の趣旨

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、外国人住民が抱える問題を中野区長と外国人住民らが話し合い、中野区を外国人にとっても日本人にとっても、暮らしやすい街にするには、どうしたらよいか探りました。

参加者	出身国
関 嘉焯 中国語講師、中野区民	中国
赵 新萌 日本語学校学生、中野区民	中国
禹 秀彬 日本語学校学生、中野区民	韓国
鄭 惺録 明治大学 3年	韓国
シンディー・ユー 明治大学 1年	アメリカ
ラマ・ジャマル・アルディーン 明治大学 1年	シリア
大塚 桂樹 IT教育会社社員、中野区民	日本
塚田 百音 明治大学 3年	日本
酒井 直人 中野区長	日本
山脇 啓造 明治大学教授	日本



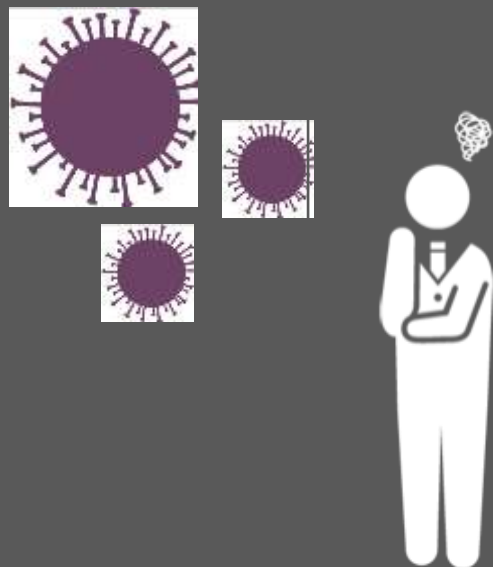
明治大学
MEIJI UNIVERSITY

国際日本学部 山脇ゼミ

2013年以来、中野区における多文化共生のまちづくりに向けて活動しています。

発行：明治大学 山脇ゼミ
編集：木村彩裕・塚田百音
発行日：2020年9月14日

新型コロナウイルス 関連について



外国人住民が 緊急時に困ることに関する 調査報告



塚田百音
(山脇ゼミ11期)

ディスカッションの最初に、山脇ゼミが行った外国人住民に対するアンケートの結果を報告した。

病院については、多くの外国人が情報が足りないと答えており、特に新型コロナウイルスに感染した際に、どうしたら良いか分からない、どこに行ったら相談すれば良いか分からないとの声が多く聞かれた。

コロナによる特別定額給付金に関しても、「申請が一人では難しかった」「正確な情報が手に入りやすかった」などの行政の情報の多言語化の重要性を訴える声が多かった。

相談できる場所も、緊急時には特にほしいとの意見や、外国人向けのメンタルヘルスのサポートを求める声があった。

コロナになったかも と思ったら...

関さん(中国)「コロナに感染したら、相談や検査を受けられる場所を見つけられるのか、心配だった。もし本当にどこに相談すればよいか分からなかったら、大使館に相談していたかもしれない。」



酒井区長「コロナに関しては、東京都にコールセンターがあり、多言語対応もできるため、基本的にはそこで対応。ちなみに、中野区では、今年度から区役所窓口などで、多言語で即時通訳を行うAI翻訳機を導入している。」

緊急事態宣言解除の情報は...



シンディさん(アメリカ)「私は当日にテレビのニュースで知ることができたが、同じ寮に住んでいる友達では、1週間後に解除されたことを知った子もいた。」

鄭さん(韓国)「自分は2日後に友達から聞き、知った。留学生のコミュニティがあるかどうかで、情報を得やすい人と得にくい人がいる。留学生でも情報の得やすさに差がある。」



特別定額給付金について

禹さん(韓国)「日本政府の『ぴったりサービス』を利用して申請したが、オンラインでは必ずマイナンバーカードが必要で、持っていない人は郵送しか申請手段がないので、とても不便だと感じた。日本でも外国人の申請のしやすさを考えたら、オンライン化を進めるべき。」



病気になったら？ 地震や台風が起きたら？



病気になった時

ラーマさん（シリア）「親が病気になった時、日本語を話せないので普段一緒に行くが、母親が一人で行ったとき、病院は母のことを追いついてしまった。それから必ず自分か兄がついていくようにしている。時間が取れないときは、母が一人で行き、電話を使って通訳する。病院の対応を改善してほしい。」



行政の対応



大塚さん（日本）「妻（関さん）の相談を受けた。妻はかなり日本語は上手であるが、行政の専門用語や細かいニュアンスはまだ難しいので、そこに対するマニュアルが行政があればいいと思う。」



関さん（中国）「国民健康保険の手続きについて、退職時に変更手続きを中野区役所で行った際、金額や保険を変更した場合に何が違うのか聞いたところ、返答がもらえなかった。職員さんは普段通りの対応のつもりだったかもしれないが、外国人は不安や疑問が多いので、もっと丁寧に対応してほしい。」

赵さん（中国）「荒川区から中野区に引っ越した際、保険料が値上がりした。区役所に状況を話しに行ったら、元の値段に戻った。疑問を持たなかったらそのままでは？日本語のあまりできない留学生にとっては困ることが多い。」



避難所・災害情報



禹さん（韓国）「地震が来た時に、どこに避難すればいいかわからない。地震の情報を、地震が来る前に知りたい。揺れが余震なのか本震なのか知りたい。」

同国人のつながりやネットワーク

鄭さん（韓国）「ネットに韓国人の情報共有の場があるが、変な情報が多い。アルバイトの募集などが多く、もっと緊急時にも使える情報共有コミュニティが欲しい」



傍聴者の声



傍聴者からの意見

東京都都民生活部 村田陽次さん

「東京都では、電話で14言語での相談対応をしている。コロナの感染が深刻な時では、一日100件ほど相談が来て、保健所につないだ。しかし、外国人都民にはまだまだ広まっていないのが課題。外国人住民が不安になった時にすぐに相談できるように、よりよいサービスを提供し、認知度を上げていきたい。」

おわりに

酒井区長



山脇教授



外国人住民の方に対して、国民健康保険の制度について説明するニーズがあるということが分かった。コロナについての情報、特別定額給付金についての申請方法等、情報の多言語化ややさしい日本語化に努めていきたい。

100名近い方に参加していただき、初めてのオンライン開催でも、特にトラブルなく、有意義な意見交換ができた。8月に法務省からやさしい日本語のガイドラインが公表予定なので、中野区の皆さんにもぜひ使っていただきたい。山脇ゼミは、今後もオンラインでできることは何でも挑戦していきたい。